

SRD キット スズキ A1 フルセット

この度は弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用の前に本書を必ずお読み下さい。

本説明書の内容

A. 使用目的・概要

製品の使用目的、概要等が記してあります。取付け車輛の使用者は必ずお読み下さい。

B. 内容物

製品及び付属品、内容物全てを記してあります。取付け作業前に必ずお読み下さい。

C. 取付けについて

製品の取付けに関して記しています。取付け作業をされる方は必ずお読み下さい。

C-1:スポーツタイプステアリングホイールを直接装着する場合の取付け手順

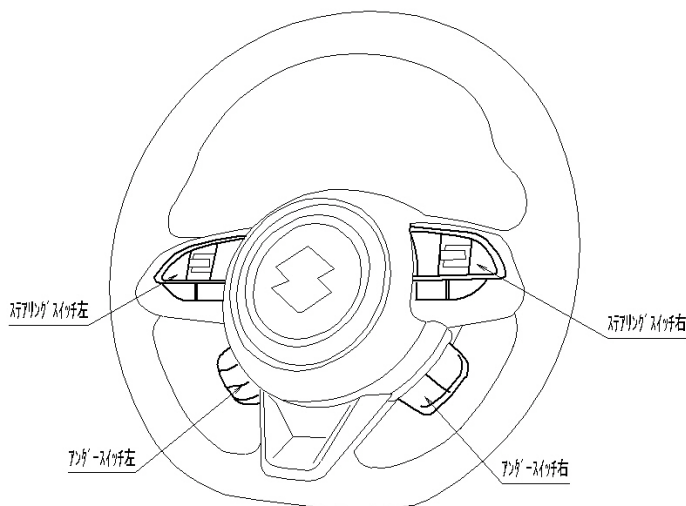
C-2:ラフィックスシリーズを併用する場合の取付け手順

D. 注意事項

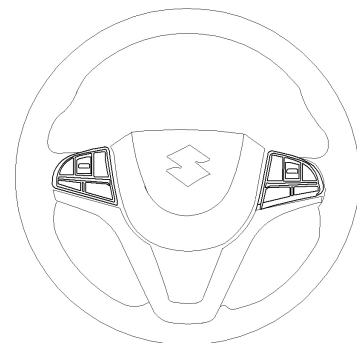
製品及び取扱説明書の内容についての注意を記してあります。取付け車輛の使用者、取付けされる方は必ずお読み下さい。

A.使用目的・概要

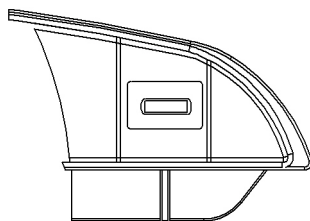
- ・ スズキ車の純正ステアリングスイッチをスポーツタイプステアリングホイールでも使用できるように移設する製品です。この目的以外で使用しないで下さい。
- ・ 下図ステアリングスイッチ形状以外のスイッチには対応いたしません。また、パドルシフト装着車両には装着できません。
- ・ ステアリングスイッチ、アンダースイッチが装備されている車両専用です。アンダースイッチが無い車両には対応いたしません。
- ・ 他社製ボスや部品と併せて使用しないで下さい。
- ・ 標準的な直径 350mm 以上のスポーツタイプ 3 本スポークステアリングホイールの使用を想定して設計されています。それより小さい直径のスポーツタイプステアリングホイールや 3 本スポーク以外のステアリングでは使用状況を検証しておりません。
- ・ スズキ純正のステアリングスイッチの取外し方は記載しておりません。車両メーカーもしくはディーラーにお尋ね下さい。
- ・ 本製品と標準的なオフセット(約 40mm)のスポーツタイプステアリングをご使用されると、おおよそ純正ステアリングと同じポジションとなります。
- ・ 弊社ラフィックス用ショートボスはスペースの関係上併用できません。



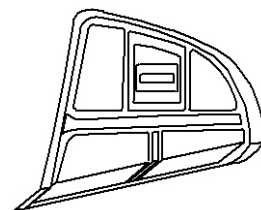
対応形状スイッチ例



非対応形状スイッチ例

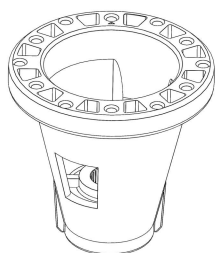


○対応形状

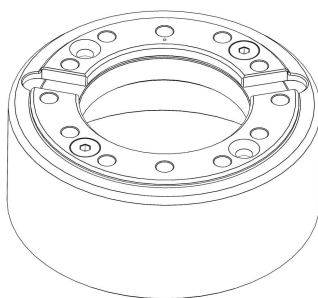


✕非対応形状

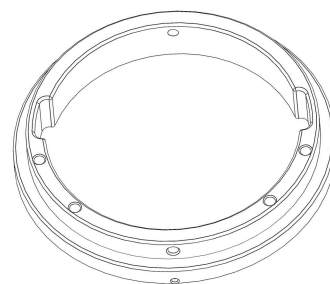
B.内容物



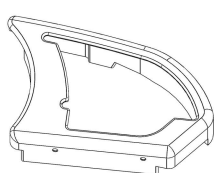
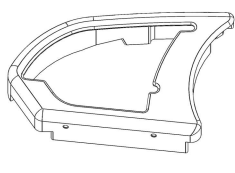
ボス本体



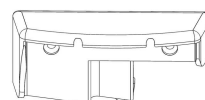
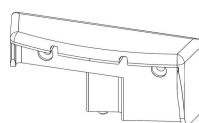
ソリッドカバー



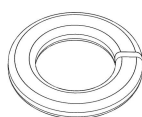
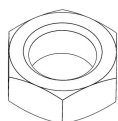
アウターリム



スイッチマウント(左右)



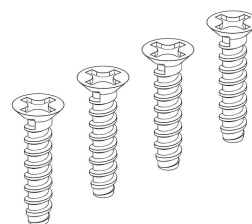
アンダースイッチマウント(左右)



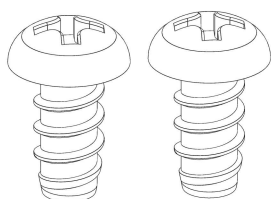
センターナット・スプリングワッシャー



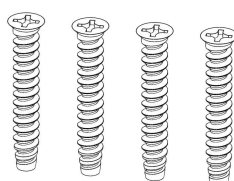
タッピングスクリュー 3×8—8 本



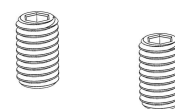
タッピングスクリュー皿 3×14—4 本



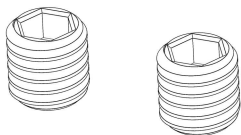
タッピングスクリュー 5×10—2 本



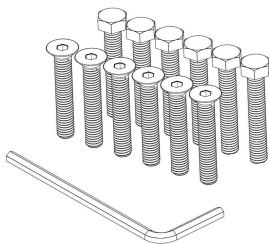
タッピングスクリュー皿 4×25—4 本



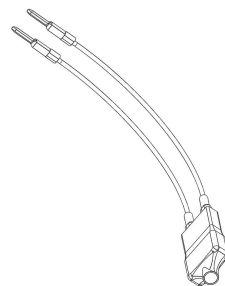
セットスクリュー M3×3—2 本



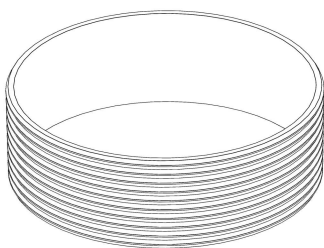
セットスクリュー M5×5—2 本



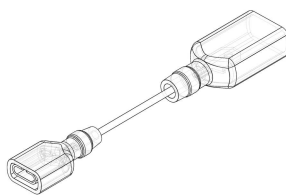
六角頭ボルト M5×30—6 本
皿頭ボルト M5×30—6 本、レンチ
※1



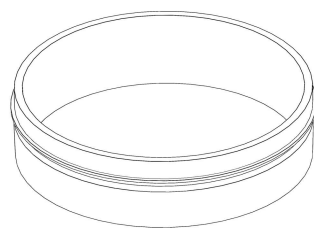
エアバッグキャンセラー



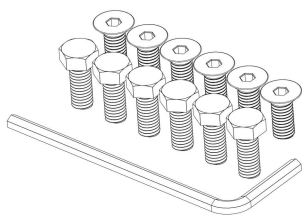
ローカーパー



変換コード



ホーンリング※1※2



皿頭ボルト M5×12—6 本
六角頭ボルト M5×12—6 本、レンチ
※3

※1:ラフィックス併用時には使用しません。

※2:NARDI タイプのステアリングでは使用しません。

※3:スポーツタイプステアリングを直接装着する際には使用しません。

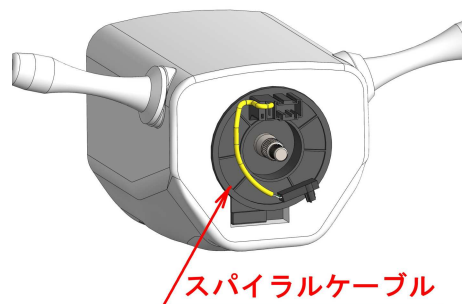
C-1. 取付けについて:スポーツタイプステアリングホイール装着時

注:ステアリングを直進状態で停車し、バッテリー端子を外してから作業して下さい。

1.純正ステアリングホイールを車輛から取外し図の状態にします。

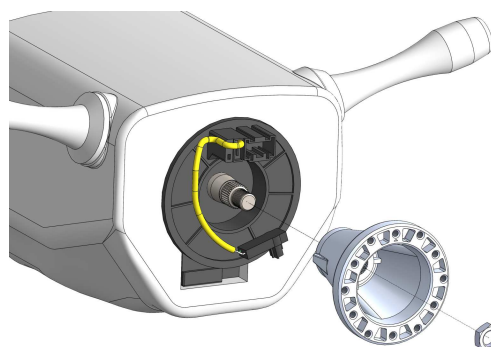
注:ステアリングを外した状態でスパイラルケーブル単体を回転させないで下さい。配線を切断してしまいます。

注:純正ステアリングを外した後、ステアリングシャフトのテーパ部をパーツクリーナー等で必ず脱脂して下さい。

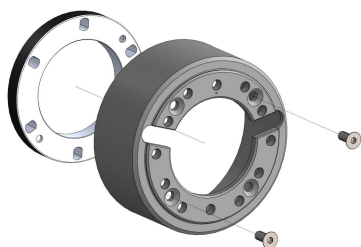
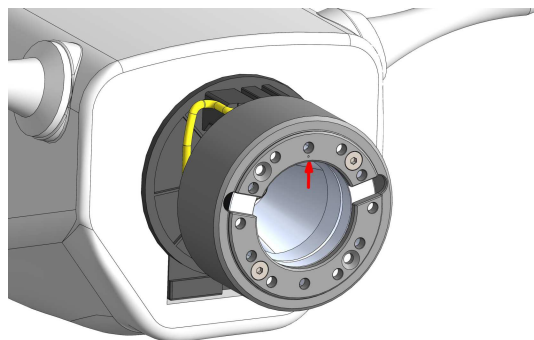


2.ボス本体の TOP マーク△をシャフトの TOP に合わせて差し込み、センターナットで仮固定します。

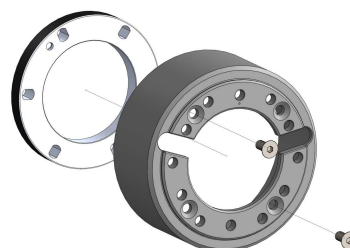
注:スプリングワッシャーは使いません。
決して強く締めないで下さい。各部品の位置を決める為の仮組みです。



3.ソリッドカバー(専用 10mm スペーサーがついた状態)の TOP をボス TOP△に合わせて被せます。(図中赤矢印)出荷状態ではソリッドカバーに専用 10mm スペーサーが MOMO 仕様でネジ留めされています。NARDI タイプのステアリングをお使いになる場合は次図のように付属レンチでネジ留めしなおして下さい。

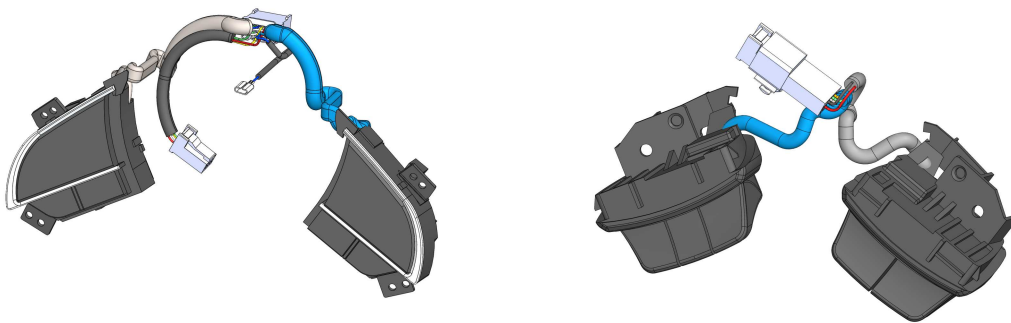


MOMO タイプ(出荷状態)



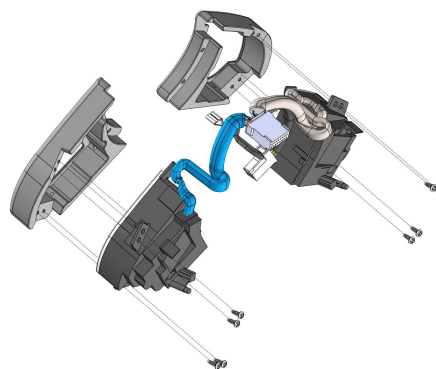
NARDI タイプ
(スペーサーの穴位置に注意)

4.純正ステアリングホイールからステアリングスイッチを取外して下さい。



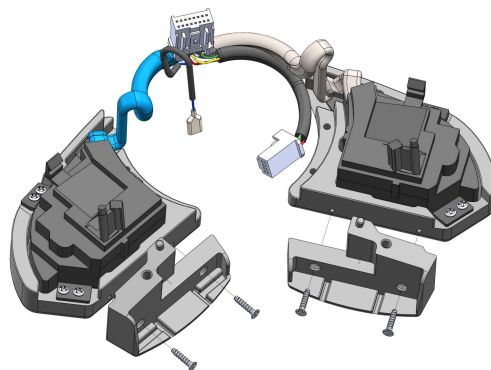
5.ステアリングスイッチをスイッチマウントにタッピング
スクリュー3×8-8本でネジ留めして下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



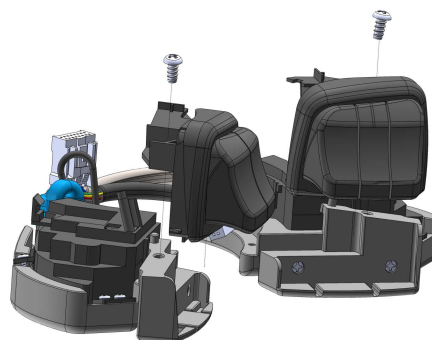
6.アンダースイッチマウントをスイッチマウントに
タッピングスクリュー皿 3×14-4本でネジ留
めします。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



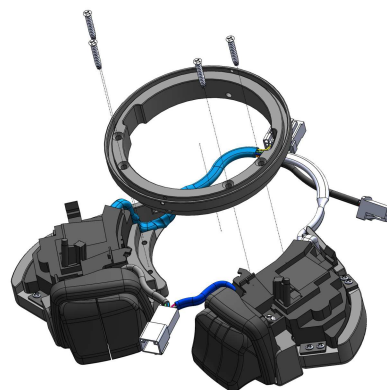
7.アンダースイッチをアンダースイッチマウントに
タッピングスクリュー5×10-2本で固定しま
す。マウントから出ているピンがスイッチの穴に
入るようにして下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



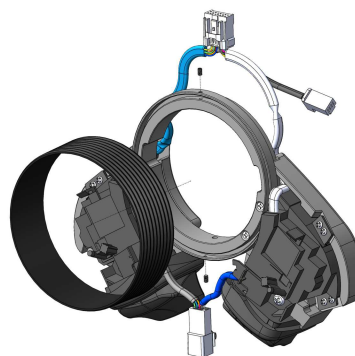
- 8.左右のスイッチマウントをタッピングスクリュー皿 4×25-4 本でアウターリムに固定します。ハーネス類は邪魔にならないように外に出しておいて下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

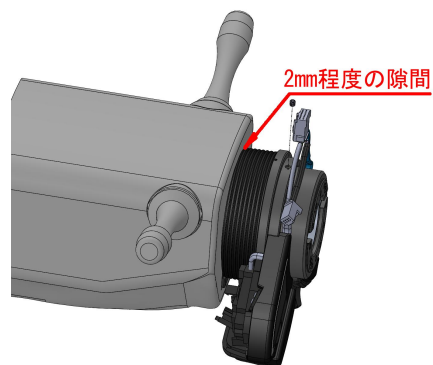


- 9.アウターリムの裏面の溝にローカーバーを差し込み、上下のネジ穴にセットスクリューM3×3-2 本でネジ留めします。カバーの抜け止めのネジなので少し締めて抜けなければ問題ありません。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

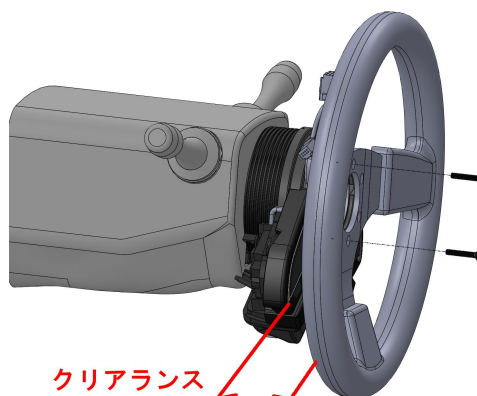


- 10.ソリッドカバーに差し込み、車体のコラムカバーとローカーバーの隙間が 2mm 前後になるように調整し、セットスクリューM5×5-2 本を緩く締めて仮固定します。差し込みにくい場合は、手順 8 のタッピングスクリュー皿 4×25 を少し緩めて下さい。



- 11.ステアリングホイールをボルト穴の形状にあわせて六角頭か皿頭ボルトどちらかの M5×30 のボルト 2 本で仮留めし、スイッチとステアリングのクリアランスをチェックします。

注:運転に影響が無いが充分にチェックして下さい。



クリアランスが狭いと思われるときはセットスクリューM5×5を緩め、アウターリムとスイッチ、スイッチマウントをソリッドカバーから抜き、ロワーカバーを外して短くカッターナイフ等で切断して下さい。

このとき、

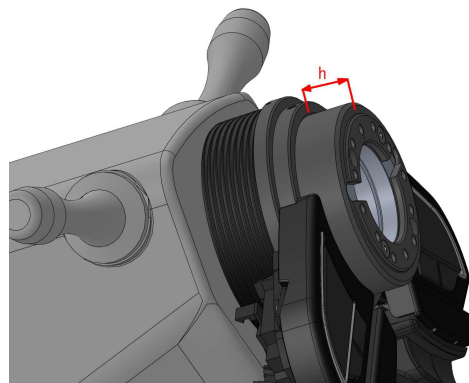
注: エンジンを始動しないで下さい。

注: カバーの切断時は怪我をしないよう充分ご注意下さい。

注: アウターリムの位置を車両側に近づけすぎると、スイッチ裏側の突起がコラムカバーやウインカー/ワイパーレバーに当たります。慎重に位置を調整して下さい。

注: やむを得ずエンジンを始動してステアリングを回転させて調べるときは手順 13 のエアバッグキャンセラーの処理を先に行ってください。

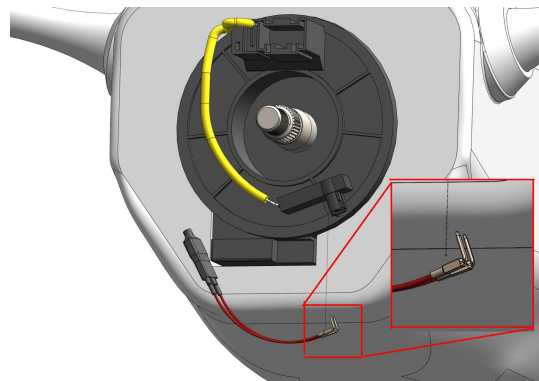
適切な位置に調整できたら、右図の寸法 h を測定しておいて下さい。本固定のときに再現が容易になります。



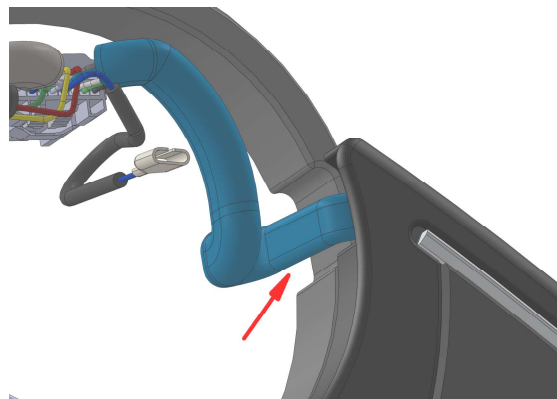
12. 一度すべての部品を外し、手順 1 の状態に戻して下さい。

13. エアバッグキャンセラーの先端を L 字に曲げ、車両のエアバッグコネクタに差し、絶縁テープ等で固定して下さい。2 本の配線に極性は有りません。テープで固定しないと接触不良等の原因になりエアバッグ警告灯が点灯してしまうことがあります。

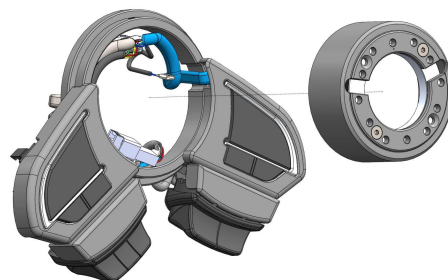
注: 端子を L 字に曲げるときは慎重に一度だけ曲げて下さい。端子が折れる恐れがあります。



14. 手順 8 の状態から配線を中心に引き入れステアリングスイッチからの左右配線をアウターリム内側の凹に収まるように形づけます。(図中矢印部分) 出来るだけ保護チューブの中で配線が重ならず平らになるようにして下さい。

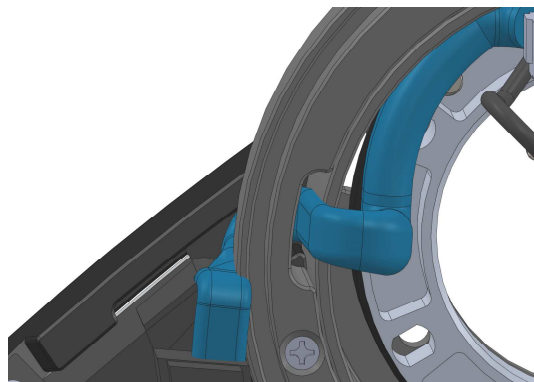


15. 配線を挟んで切らないよう慎重にソリッドカバーを手順 14 の状態に差し込みます。スイッチマウントをアウターリムに留めているタッピングスクリー皿 4×25 を少し緩めてから差し込んで下さい。

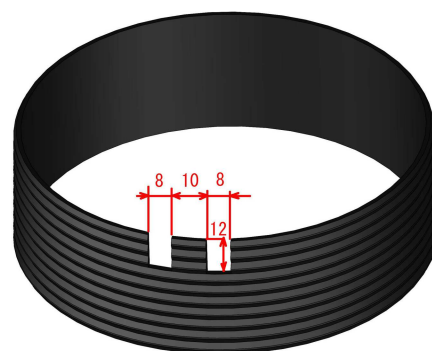


配線は裏から見ると右図のように見えます。アウターリムとソリッドカバーの隙間がかなり狭いため慎重に行って下さい。(図は右側裏面のみ。左側配線も同じ)

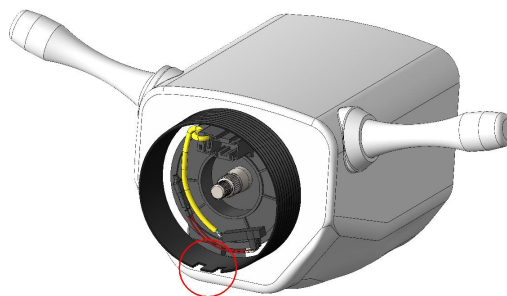
手順 11 の終盤で測定した寸法 h に調整したらセットスクリー M5×5 で仮留めし、上記タッピングスクリー皿 4×25 を締めなおして下さい。



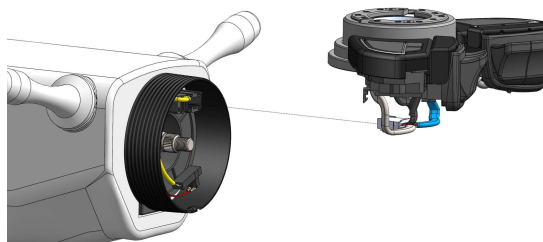
16. ロワーカバーにカッターナイフもしくはハサミで図のような切込みを入れ、アンダースイッチの配線が通るようにして下さい。
数字は mm 表示です。配線を通す為の切り欠きなので多少の誤差は問題ありません。



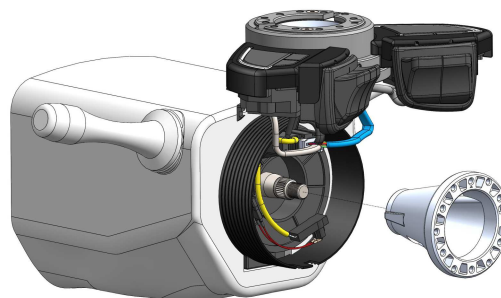
17. 手順 13 の状態に、ロワーカバーを被せます。手順 16 の切り欠きを運転者側に置いて下さい。(赤丸部分)



18. 手順 15 で組み立てたソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウント類を用意し、先にコネクタを差し込んで下さい。

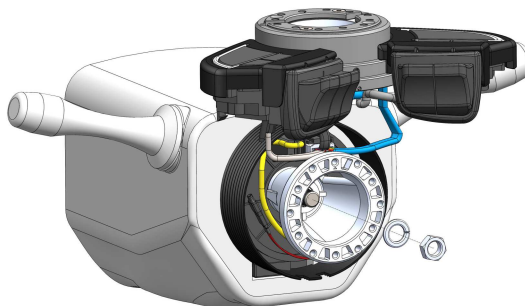


19. ボスをセンターシャフトに挿入して下さい。△の TOP マークが真上です。セレーションの谷と山を噛み合わせて挿入して下さい。

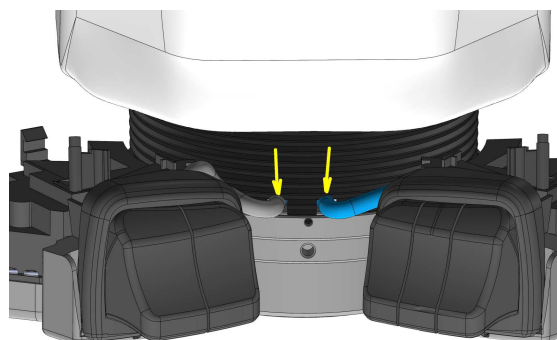
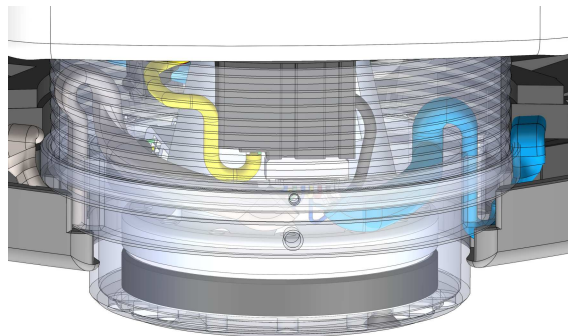


20. センターナットを締めて下さい。スプリングワッシャを入れて規定トルク 30Nm (3kg・m)を守ってゆっくりと慎重に締め付けて下さい。必要であればステアリングを仮留めして締めて下さい。必ずトルクレンチを使用して下さい。

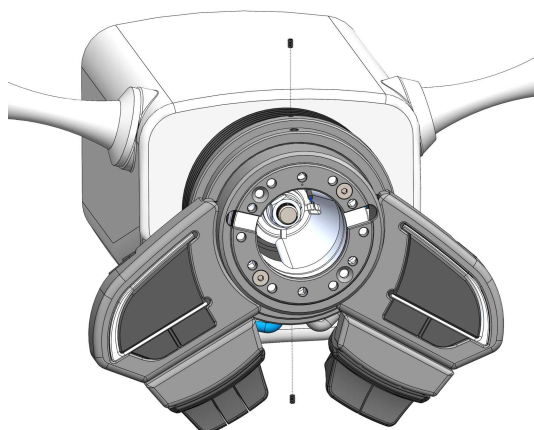
注: 十字レンチやインパクトレンチを使用すると破損する恐れがあります。



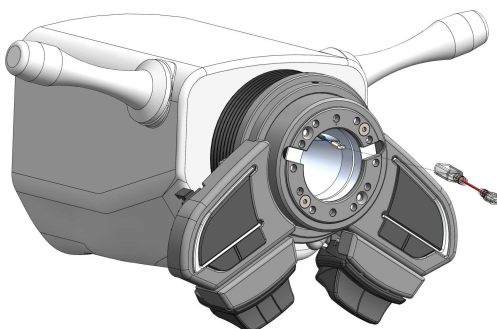
21.ホーン配線をボスの中に通してから、ソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウントをボスに被せて下さい。このとき、配線類でスパイラルケーブルを車体側に押さないように慎重にレイアウトして下さい。**スパイラルケーブルを押したまま運転すると、ステアリングが重くなり、最終的にスパイラルケーブルを破損します。**必要に応じて手順 13 のエアバッグコネクタとエアバッグキャンセラーをボスの中に収納してスペースを稼いで下さい。図はアウターリムとソリッドカバー、ロワーカバーを半透明にして上から見た状況です。参考にして下さい。同時に、手順 16 で設けたロワーカバーの溝にアンダースイッチの配線を通し、アウターリムの車体側溝にロワーカバーを挿入して下さい。



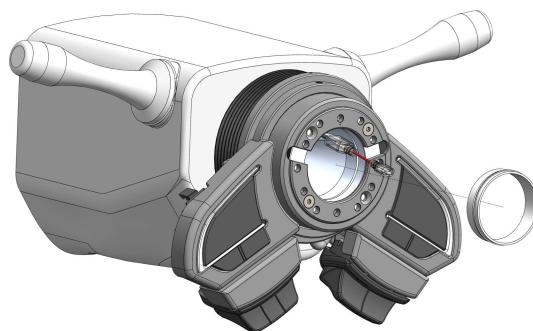
22.アウターリムとロワーカバーを手順 9 と同じセットスクリューM3×3-2 本で本固定します。
注: 樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



23.ホーンの変換配線を純正ホーン端子に接続します。



24.MOMO タイプのステアリングを使用する場合は
ホーンリングをセンターボアに挿入します。
NARDI タイプのステアリングはホーンリングを
使用しません。



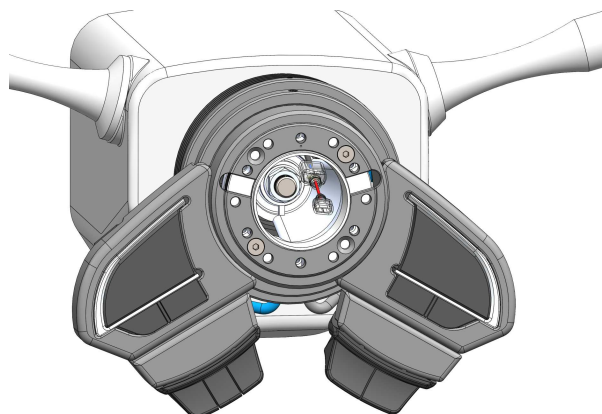
25.完成です。ローカーバーと車両コラムカ
バーの隙間が2mm 程度開いていることを
確認し、手順 15 のセットスクリューM5×5
の 2 本を均等に締めます。締めすぎると
ソリットカバーが壊れます。徐々に締めて
アウターリムが動かなくなれば OK です。

注: 締めすぎにご注意下さい。

他各部のネジが締まっているか確認し、
ステアリングとホーンボタンを取付けて下

さい。ステアリングはボルト穴の形状にあわせて六角頭か皿頭どちらかの M5×30 のボルト 6
本でネジ留めして下さい。

ホーンボタンが 2 極のタイプは別途アース線の敷設が必要となります。



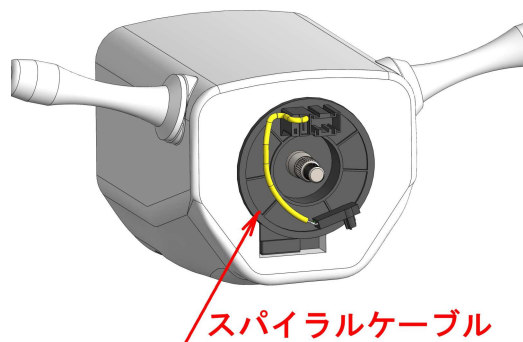
C-2. 取付けについて:ラフィックスと併用時

注:ステアリングを直進状態で停車し、バッテリー端子を外してから作業して下さい。

1.純正ステアリングホイールを車輛から取外し図の状態にします。

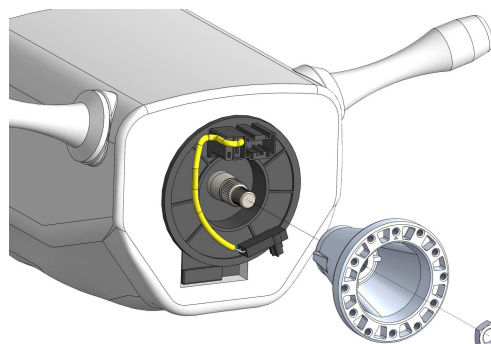
注:ステアリングを外した状態でスパイラルケーブル単体を回転させないで下さい。配線が切断してしまいます。

注:純正ステアリングを外した後、ステアリングシャフトのテーパ部分をパーツクリーナー等で必ず脱脂して下さい。

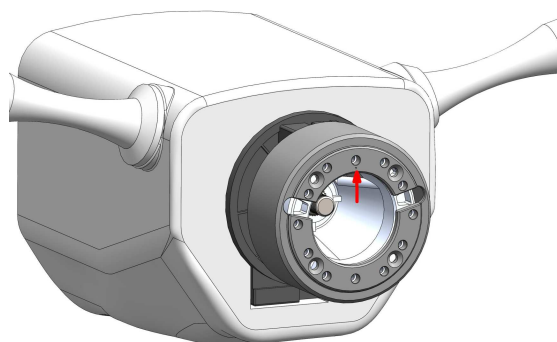


2.ボス本体をシャフトの TOP に合わせて差込み、センターナットで仮固定します。

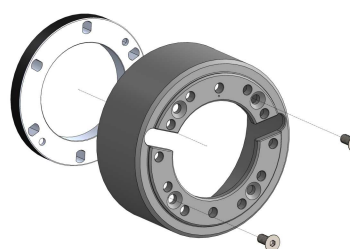
注:スプリングワッシャーは使いません。
決して強く締めないで下さい。各部品の位置を決める為の仮組みです。



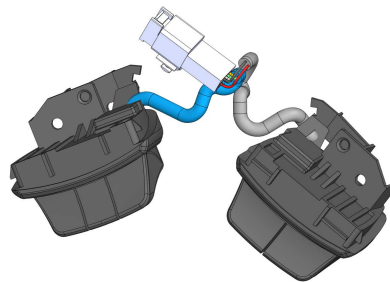
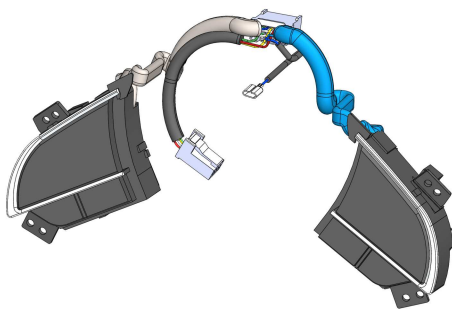
3.ソリッドカバーから専用 10mm スペーサーを外して、ボス TOP△マークにあわせて被せます。(図中赤矢印)



出荷状態ではソリッドカバーに専用 10mm スペーサーが MOMO 仕様でネジ留めされています。表面の皿頭ボルトを付属レンチで外して下さい。

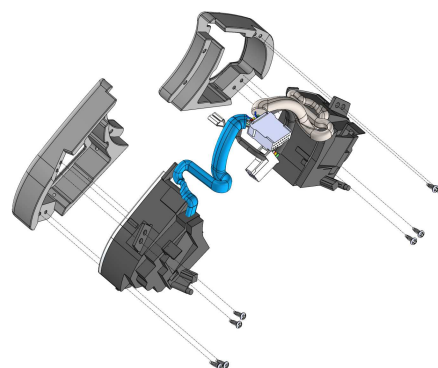


4.純正ステアリングホイールからステアリングスイッチを取外して下さい。



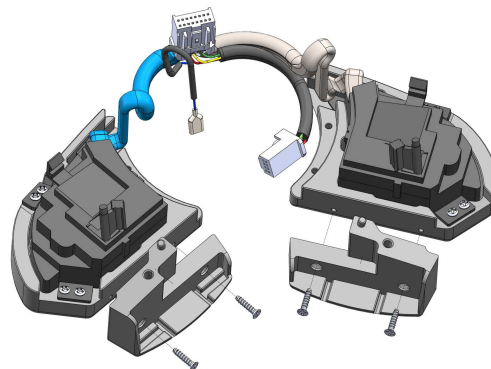
5.ステアリングスイッチをスイッチマウントにタッピング
スクリュー3×8-8本でネジ留めして下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



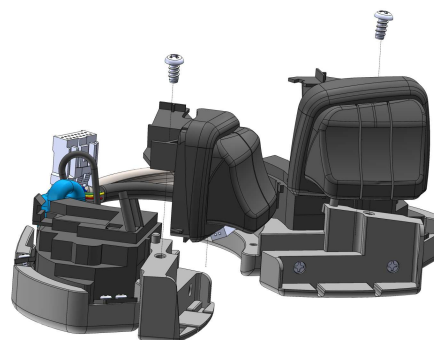
6.アンダースイッチマウントをスイッチマウントに
タッピングスクリュー皿 3×14-4本でネジ留
めします。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



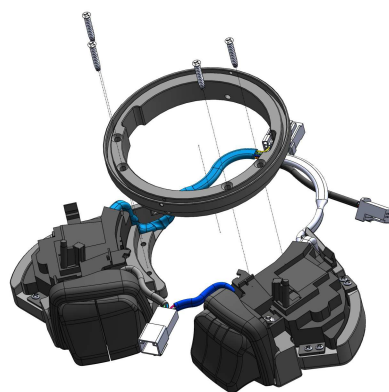
7.アンダースイッチをアンダースイッチマウントに
タッピングスクリュー5×10-2本で固定しま
す。マウントから出ているピンがスイッチの穴に
入るようにして下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



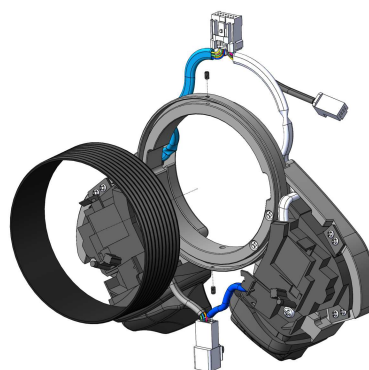
- 8.左右のスイッチマウントをタッピングスクリー 皿 4×25－4 本でアウターリムに固定します。ハーネス類は邪魔にならないように外に出しておいて下さい。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

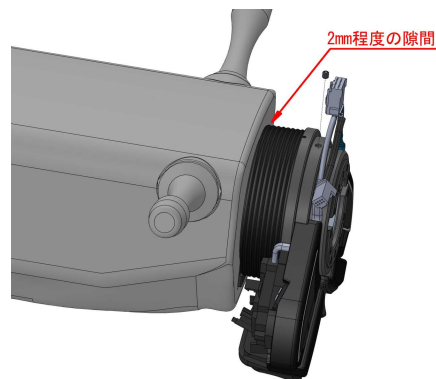


- 9.アウターリムの裏面の溝にロワーカバーを差し込み、上下のネジ穴にセットスクリー M3×3－2 本でネジ留めします。カバーの抜け止めネジなので少し締めて抜けなければ問題ありません。

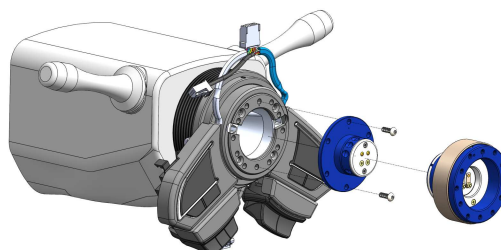
注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。



- 10.ソリッドカバーに差し込み、車体のコラムカバーとロワーカバーの隙間が 2mm 前後になるように調整し、セットスクリー M5×5－2 本を緩く締めて仮固定します。差し込みにくい場合は手順 8 のタッピングスクリー 皿 4×25 を少し緩めて下さい。



- 11.ラフィックスとステアリングをラフィックス付属のボルト数本で仮留めして、スイッチとのクリアランスをチェックします。



ステアリングはボルト穴形状にあわせて六角頭か皿頭どちらかの M5×12 のボルト 2 本で仮留めして下さい。

注: 運転に影響がないか充分チェックして下さい。

クリアランスが狭いと思われるときはセットスクリュー M5×5 を緩め、アウターリムとスイッチをソリッドカバーから抜き、ローカーバーを外して短くカッターナイフ等で切断して下さい。ラフィックスの高さがあるので狭すぎるということはないはずですが、別売のフリッパーを併用するときはスイッチと干渉する可能性があります。

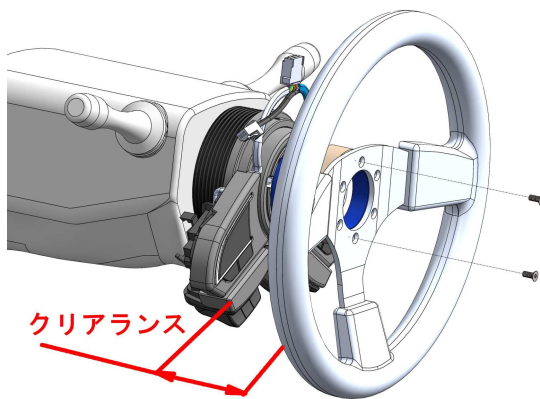
このとき、

注: エンジンを始動しないで下さい。

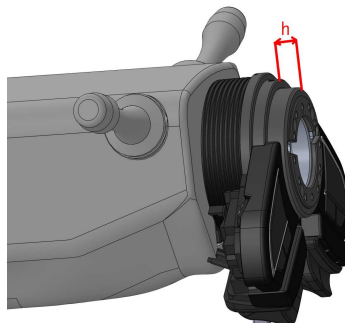
注: カバーの切断時は怪我をしないよう充分ご注意下さい。

注: アウターリムの位置を車両側に近づけすぎると、スイッチ裏側の突起がコラムカバーやウインカー/ワイパーレバーに当たります。慎重に位置を調整して下さい。

注: やむを得ずエンジンを始動してステアリングを回転させて調べるときは手順 13 のエアバッグキャンセラーの処理を先に行ってください。



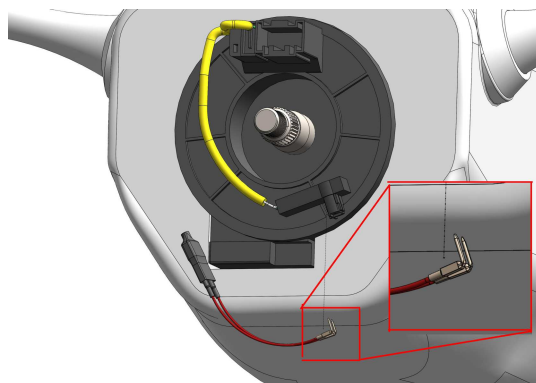
適切な位置に調整できたら、右図の寸法 h を測定しておいて下さい。本固定のときに再現が容易になります。



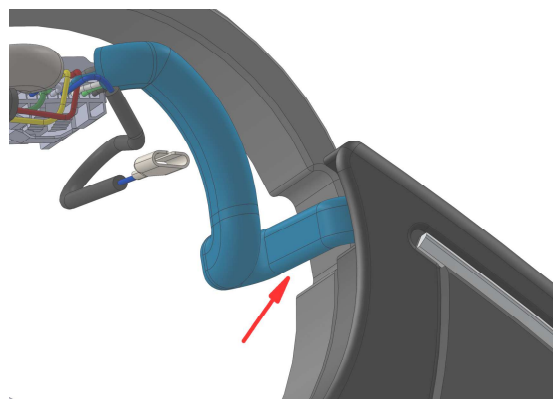
12. 一度すべての部品を取外し、手順 1 の状態に戻して下さい。

13.エアバッグキャンセラーの先端をL字に曲げ、車両のエアバッグコネクタに差し込んで絶縁テープ等で固定して下さい。2本の配線に極性は有りません。テープで固定しないと接触不良等の原因になりエアバッグ警告灯が点灯してしまうことがあります。

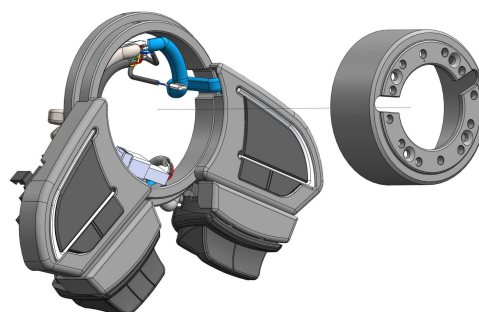
注: 端子をL字に曲げるときは慎重に一度だけ曲げて下さい。端子が折れる恐れがあります。



14.手順 8 の状態から配線を中心に引き入れ、ステアリングスイッチからの左右配線をアウターリム内側の凹に収まるように形づけます。(図中矢印部分)出来るだけ保護チューブの中で配線が重ならず平らになるようにして下さい。



15.配線を挟んで切らないように慎重にソリッドカバーを手順 14 の状態に差し込みます。スイッチマウントをアウターリムに留めているタッピングスクリュー皿 4×25 を少し緩めてから差し込んで下さい。

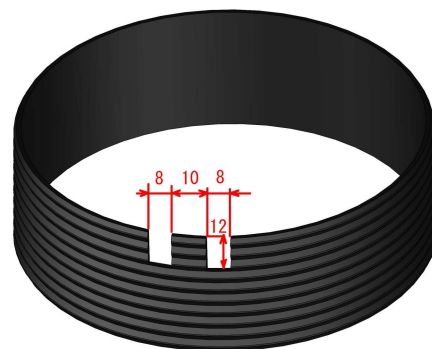


配線は裏から見ると右図のように見えます。アウターリムとソリッドカバーの隙間がかなり狭いため慎重に行って下さい。(図は右側裏面のみ。左側配線も同じ)

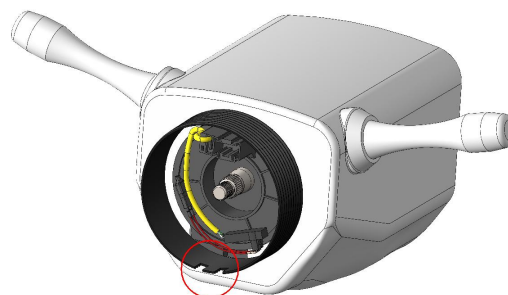
手順 11 の終盤で測定した寸法 h に調整したらセットスクリューM5×5 で仮留めし、上記タッピングスクリュー4×25 を締めなおして下さい。



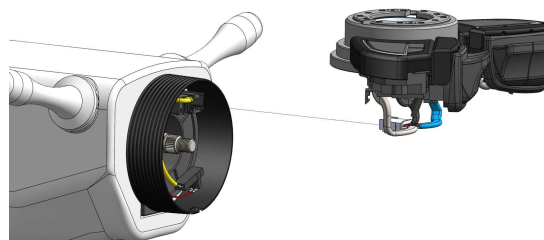
16. ロワーカバーにカッターナイフもしくはハサミで図のような切込みを入れ、アンダースイッチの配線が通るようにして下さい。数字は mm 表示です。配線を通す為の切り欠きなので多少の誤差は問題ありません。



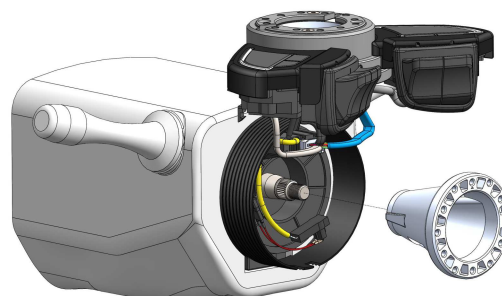
17. 手順 13 の状態に、ローワーカバーを被せます。
手順 16 の切り欠きを運転者側に置いて下さい。(赤丸部分)



18. 手順 15 で組み立てたソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウント類を用意し、先にコネクタを差し込んで下さい。

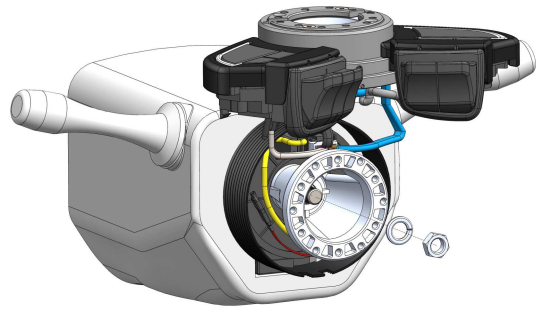


19. ボスをセンターシャフトに挿入して下さい。△の TOP マークが真上です。セレーションの谷と山を噛み合わせて挿入して下さい。

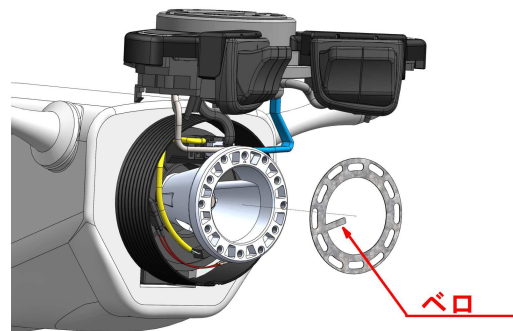


20.センターナットを締めて下さい。スプリングワッシャを入れて規定トルク 30Nm (3kg・m)を守ってゆっくりと慎重に締め付けて下さい。必要であればステアリングを仮留めして締めて下さい。必ずトルクレンチを使用して下さい。

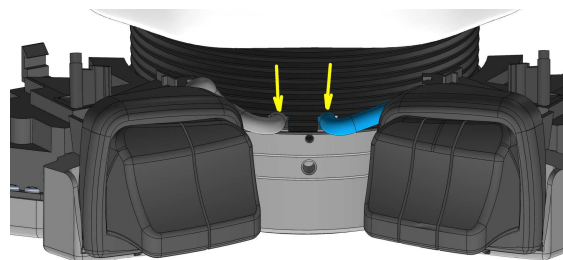
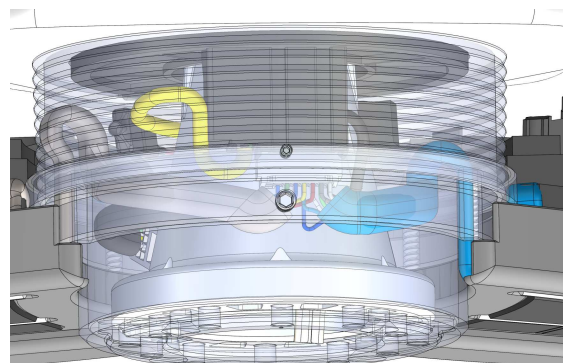
注: 十字レンチやインパクトレンチを使用すると破損する恐れがあります。



21.ラフィックス付属のアースリングをボスの上に乗せ、穴を合わせます。内側のベロの位置はどこでも構いません。

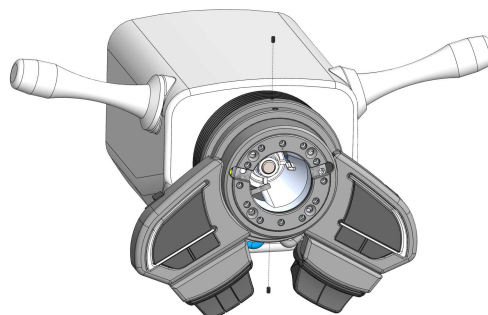


22.ホーン配線をボスの中に通してから、ソリッドカバー、アウターリム、スイッチ、マウントをボスに被せて下さい。このとき、配線類でスパイラルケーブルを車体側に押さないように慎重にレイアウトして下さい。**スパイラルケーブルを押したまま運転すると、ステアリングが重くなり、最終的にスパイラルケーブルを破損します。**必要に応じて手順 13 のエアバッグコネクタとエアバッグキャンセラーをボスの中に収納してスペースを稼いで下さい。図はソリッドカバー、アウターリムとロワーカバーを半透明にして上から見た状況です。参考にして下さい。同時に、手順 16 で設けたロワーカバーの溝にアンダースイッチの配線を通し、アウターリムの車体側溝にロワーカバーを挿入して下さい。

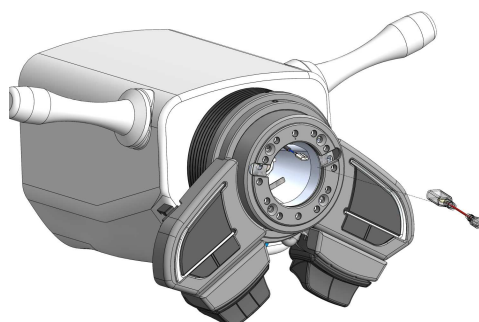


23.アウターリムとロワーカバーを手順 9 と同じセットスクリューM3×3-2 本で本固定します。

注:樹脂なので締めすぎにご注意下さい。

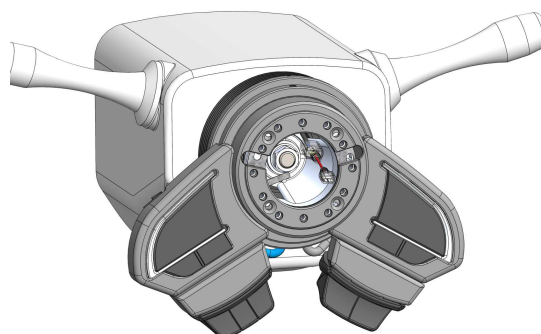


24.ホーンの変換配線を純正ホーン端子に接続します。



25.完成です。ロワーカバーと車両コラムカバーの隙間が 2mm 程度開いていることを確認し、手順 15 のセットスクリューM5×5-2 本を締めます。締めすぎるとソリットカバーが壊れます。徐々に締めてアウターリムが動かなくなれば OK です。

注:締めすぎにご注意下さい。



他各部のネジが締まっているか確認し、ラフィックスとステアリング、ホーンボタンを取付けて下さい。ラフィックスにステアリングを取付ける際には、ラフィックスの取扱説明書を参照し、ステアリングのボルト穴形状にあわせて六角頭か皿頭どちらかの M5×12 ボルト 6 本でネジ留めして下さい。

D.注意事項

- ・ 取付け完了後、ステアリング操作をして異常が無いか確認して下さい。正しい配線の取回し等がなされず、車輛側のスパイラルケーブルを配線類で押していると、ステアリング操作が重くなることがあります。また、**その状態で運転を続けると車輛部品が破損する恐れがあります。ご注意ください。**
- ・ アウターリムの調整位置によってはステアリングが直進状態でないときにパッシングするとアンダースイッチとウインカーレバーが干渉する場合があります。ご了承下さい。
- ・ ステアリングを直接装着する場合で、本製品に更にボススペーサーを追加してポジションを運転者側にしたい方は10mmまたは15mmのスペーサーまでであれば対応可能です。その際、10mmスペーサーはスペーサー本体とは別売の「25mm スペーサー用ネジセット」、15mm スペーサーはスペーサー本体とは別売の「30mm スペーサー用ネジセット」をお求め頂くか、ご自分でボルト類をご用意して頂く必要があります。
- ・ ラフィックスと併用する場合、スペーサーはラフィックスとステアリングの間に装着して下さい。10mm～30mm で5mm 刻みに5種類の設定があり、どの種類でも購入したままご利用頂けます。
- ・ 車輛の運行前には必ず各部品が確実に固定されていることを確認して下さい。**運転中にスイッチマウントが脱落したり動いたりするとステアリング操作ができなくなり大変危険です。**
- ・ 本製品を改造してご使用にならないで下さい。
- ・ 取外した**純正ステアリングや部品は大切に保存しておいて下さい。**なんらかの理由により、純正状態に戻す際に必要になります。弊社ではその責任を負えません。
- ・ 弊社製品は慎重に検査し不具合がないことを確認してから出荷しておりますが、万が一品質に問題がある場合は弊社までお問い合わせ下さい。このとき製品を一度弊社までお送り頂く場合が有り得ます。上記純正部品が必要になりますし、ご自分で作業されない方は工賃が発生することが想定できますが、弊社ではこの**純正部品、工賃等は一切保証致しかねます**ので何卒ご了承下さい。
- ・ 付属エアバッグキャンセラーを正しく装着しても車輛の個体差により、一部の車輛でエアバッグ警告灯を消灯できないことがあります。対策品のご用意はありますが、確実に全ての車輛に有効ではありません。
- ・ ボス装着時にTOPマークを真上にしてもセレーション半山分のズレが生じることがあります。車両の個体差によるものです。工賃等お客様ご負担で整備工場等にてアライメント調整を行ってください。
- ・ エアバッグを取外すことにより、自動車任意保険の契約が変更になる可能性があります。ご契約の保険会社にお問い合わせ下さい。

製造元:株式会社ワークスベル

〒391-0011 長野県茅野市玉川 8507

問合せ先:ワークスベル・カスタマーセンター

TEL:0266-70-1477

E mail: support@worksbell.co.jp